令和7年度　自己評価結果報告書

学校名	成田市立中台小学校

1　学校教育目標

かしこい子どもの育成「勉強する子　やさしい子　元気な子」

2　本年度の重点化された具体的な目標

・確かな学力：楽しくわかる授業を目指し，意欲的な学習態度を形成する。
・豊かな社会力：よりよい学校づくりを子どもたちとともに目指し，秩序ある学校生活態度を形成し，いじめのない学級をつくる。
・がんばりの効く体力：外遊び・運動等の内容を充実させ，食育に関心をもち，みんなで運動する態度と，元気に生活できる体力を育成する。

3　自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
家庭との連携 情報の公開	②授業や行事等を参観する機会を十分設けている。	②保護者の95．8%が肯定的回答。 （▼4．2%） ・職員の73．3%が最高評価。	A	・年間20号以上の学校だよりをはじめ、学年だより、図書だより、保健だよりを配信し、学校での児童の様子を積極的に発信できた。 ・感染症の拡大防止のため、オープンスクールと保護者会が中止になってしまったが、代替案として、学校での様子を伝える文書や、授業発表動画の配信など、工夫を凝らした試みを行った。 ・保護者が必要とする情報を的確に届けられるよう努めていく。
	④児童の様子を学年だよりや懇談会などによって伝えている。	④保護者の93．7%が肯定的回答。 （▼1．4%） ・職員の73．3%が最高評価。	A	
学習活動	⑤学校は，学力向上のための取組を行っている。	⑤保護者の93．0%が肯定的回答。 （＋2．0%） ・職員の33．3%が最高評価。	A	・昨年に引き続き、生活科・理科において「コミュニケーション力」を高める指導法を追究してきた。指導主事を講師に招き、対話によって理解を深めていく授業の在り方について研修を行い、成果を上げることができた。 ・学校支援地域本部事業と連携して、定期的に読み聞かせを実施したり、学校司書や図書委員による各種企画により、読書量が増えてきているので継続したい。
	⑥学校は，子どもが読書に親しむための取組を行っている。	⑥保護者の91．5%が肯定的回答。 （▼2．9%） ・職員の43．8%が最高評価。	B	
健康指導 生徒指導	⑧学校は，子どもがきまりや約束を守って生活できるように指導を行っている。	⑧保護者の93．7%が肯定的回答。 （＋1．3%） ・職員の66．7%が最高評価。	A	・職員間のコミュニケーションをよくとり、情報交換を密に行うことで、共通理解・共通行動で、生徒指導に臨むことができた。 ・県教委主催の「遊・友スポーツチャレンジちば」の参加を実施し、好成績を収めることができた。また、正課体育だけでなく、なわとび検定への挑戦や陸上練習など、休み時間などにも進んで体を動かす児童が増えた。 ・清潔感ある施設・設備を生かした落ち着いた学びの環境整備に注力する。
	⑩学校は，子どもの健康増進・体力の向上に向けた取組を行っている。	⑩保護者の96．5%が肯定的回答。 （＋3．4%） ・職員の59．9%が最高評価。	A	
学校行事など	⑬学校は，子どもが楽しめる活動内容を工夫している	⑬保護者の93．0%が肯定的回答。 （▼0．1.%） ・職員の58．5%が最高評価。	A	・総合的な学習の時間で、各学年の学習テーマを明確にし、体験学習を軸とした充実した教育活動を実施してきた。 ・校外学習でも、各学年の学習内容との関連を重視し、丁寧な事前・事後学習を行いながら、体験を通して理解が深まるよう工夫している。 ・月1回の校内支援委員会を定期開催するとともに、ケース会議を始めとした共通理解を図る場を適宜実施し、児童の困り感に組織で対応できる体制を整えている。
	⑭学校は，児童個々の実態に応じた支援の手立てや合理的配慮，校内体制がとられている。	⑭保護者の94．4%が肯定的回答。 （▼2．1） ・職員の57．7%が最高評価。	A	

環境	⑮学校は，児童の豊かな心を育むにふさわしい教育環境を整えている。	⑮保護者の92．3%が肯定的回答。 （▼4．9%） ・職員の56．3%が最高評価。	B	・学校支援地域本部と連携し、体験活動を中心に地域人材が指導する活動を昨年と同様に実施した。花植え活動や昔遊び体験、まち探検など、地域の方々とのふれあいを実感しながら様々な体験をすることができた。 ・道徳の授業の充実を目指しつつ、それを要として人や物を大事にする心を育成するとともに、一人一人の自己肯定感を高める活動を実践する。 ・地域の方々との連携の様子を学校から発信し、家庭と学校と地域の連携を深めていく。
	⑯学校は，外部人材を活用した教育環境を整え，社会体験活動を十分に行っている。	⑯保護者の93．0%が肯定的回答。 （▼2．1%） ・職員の62．5%が最高評価。	A	

4 自己評価の結果の分析

〇清潔感ある施設・設備の下、学校教育目標である「かしこい子どもの育成 『勉強する子　やさしい子　元気な子』」の実現を目指し、課題を意識した重点目標を設定していく。
・学力向上を目指し、研修をさらに充実させる。具体的には、ICT機器の有効な活用事例の蓄積、対話的な活動の充実、読解力の向上などを意識した教員の指導力向上に努める。また、多様な運動活動を経験できるよう環境を整える。
・基本的な生活習慣の確立・道徳の授業の充実と道徳的実践力の向上、豊かな読書体験による心の耕しをめざすとともに、児童及び保護者の気持ちに寄り添いながらその自己肯定感を高めていく。
・年間を通じた体力づくりを充実させるとともに、外遊びの奨励を進める。
〇スクールカウンセラー・教育相談員、スクールソーシャルワーカーなどの専門家と連携しながら、児童一人ひとりの実態に寄り添って、適切な支援が組織的にできるような学校体制・研修体制を作っていく。
〇学校教育の質的向上を図るために、引き続き、PDCAサイクルを機能させていく。